

令和5年度 学校評価表

学校教育目標

人権尊重を基盤として、これからの時代を生き抜く、心優しく、たくましい岡見っ子の育成

浜田市立岡見小学校

(お)思いやりのある子 (か)考え創りだす子 (み)自らきたえる子

	中期目標	短期目標	評価計画			自己評価			学校関係者評価	改善計画			
			達成のための方策			評価指標			アンケート			コメント	改善案
			教職員	児童	保護者	教職員	児童	保護者					
夢を育み、その実現に向かう学校	【学力】考え創り出す力	活用教育	「学ぶ力」の育成を目指し、わくわくするような楽しい授業を目指す。 ・子供の声で作る授業(学習の見通しを立て振り返る)を授業を実践する。 ・児童の知的好奇心を引き出すような授業の流れを工夫する。 ・複式カリキュラムの実践、研究を進める。	様々な学習形態を取り入れ、児童・教師・教材・地域・家庭とのかかわり合いのある授業づくりを行った。 ・各学級が細案による授業を年1回公開した。 ・児童が夢中になる授業ができた。(数回でも、1回でも。)	次の時間が楽しみになるような授業がたくさんあった。 ・周りの友達の話聞いて、自分の考えに役立てることができた。	先生は、わかりやすい授業をしようと工夫している。	A	A	A	・図書館活用教育や家庭学習について、児童や教員の評価は高いのに保護者の評価が低いのは、家での勉強をもっとやってほしいという保護者の願いと受け止めるべきではないだろうか。 ・児童クラブでは、まず学校の宿題を済ませてから遊ぶように指導されている。その場合、家に帰ってからは、勉強する姿は見えないこともあるのではないか。このように保護者が把握しきれていない面もあるかもしれない。 ・勉強する姿が親から見えなくなるのも成長の一面という見方もできる。 ・外国語の学習について、小学校から外国語に触れることはとてもいいこと。電子黒板の活用などが、大変効果的だと感じた。	・図書館教育をテーマとした研究授業は計画通り行えたが、要約学習や、思考ツールを用いた探究学習など、さらに追求したいテーマが見つかった。来年度は複式教育の研修的な内容を進める予定だが、そこに、これらの視点も取り入れていきたい。		
			「調べる」「考える」「表す」「伝える」など総合的な学力の育成を目指す。 ・読書、調べ活動等で意図的に学校図書館を活用する。 ・図書だよりを定期的に発行し、家庭にも図書館の情報発信を行う。	読書や調べ活動等で、学校図書館を月1回以上活用した。 ・朝の時間を利用して読書の時間を設定したり、家庭での読書を促す取組を進めたりし、読書の習慣がついてきている。	家読に取り組むことができた。 ・図書館を使った調べ学習をした。	お子さんは、家読や調べ学習に取り組んでいる。	B	A	C				
			「学んだ力」の育成に向け、基礎的な学力の向上を図る。 ・家庭学習の手引きを活用する。(家庭学習の手引きを使って指導する。また、家庭学習の手引きについて学級だよりで情報提供する。) ・計画的な家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ・個別の支援の充実を図る。	家庭学習の手引きや自学メニューを使った児童のノートを紹介する等活用し、学習習慣の確立を図った。 ・発達段階に応じたタイムマネジメントの指導を行った。 ・個別の指導計画・支援計画に基づいた、積極的な指導に取り組んだ。	各学年のめやすの家庭学習時間を意識し取り組んだ。 ・いろいろな内容の家庭学習に取り組むことができた。	お子さんは、学年の目標時間を意識して家庭学習に取り組んでいる。	A	A	C				
豊かな人間性(感性)を育む学校	【自治力】思いやりのある子	特別活動	ルールとリレーションのある学級集団を目指す。 ・アンケートQUを2回実施し、その結果を基にした学級経営を推進する。 ・生徒指導職員会を定期的に行い、児童の様子を職員全体で共有し、指導や支援に活かす。 ・なかよしアンケートや教育相談(SC面談含む)を計画的に実施し、児童の実態を把握する。	日常のかかわりや、各種アンケートなどを通して、児童の不安や困り感を把握し、児童にとって安心安全な学級経営を推進した。 ・児童の様子を職員全体で共有し、指導や支援に活かした。	悩んだり、困ったりしたとき友達や先生などに相談しようと思う。	学校は、子どものことについて気軽に相談することができる。	A	A	A	・「思いやりのある子」の評価項目については、児童・保護者ともに概ね高い評価であり、取組が充実しているものと考えられる。しかし、来年度には5・6年生が複式学級となることもあり、三隅小との交流学習においては、内容や実施方法の工夫が必要となる。			
			特別活動を充実させ、「自治的活動」を活性化することで「納得解」を作る力を育てる。 ・学級会活動や係活動の充実を図る。 ・児童会活動や学校行事を通して、学校全体を視野に入れた自治力を育てる。	学年に応じた活動内容を工夫し、係活動に取り組ませた。 ・自分たちで学級のことを決める場面を設けた。 ・学年や立場に応じた取り組み方の指導を行った。	岡見小学校をよりよくするために、頑張ったことがある。	お子さんは学校の行事に、前向きに楽しく取り組んでいる。	A	A	A				
			ふるさとと主体的にかかわることで「自己有用感」を高める。 ・年間計画を立て、保育所、三隅小学校、三隅中学校と意見を共有しながら交流活動や情報交換を行う。その内容を、日々の教育活動に活かしていく。 ・児童一人一人のライフキャリア育成の視点を大切に取組を進める。	保小連携、小小連携、小中連携を進めた。 ・児童クラブと2カ月に1回、連絡会を開催し情報を交換し、その情報を生かした。	地域の人と一緒に学習を楽しむにしている。	学校は、地域を知る学習、地域から学ぶ学習に力を入れている。	B	A	A				
健康な身体を育む学校	【体力】やりきえる子	生活習慣	「心の安定」を図り、学校や社会生活を前向きな気持ちで営めるよう、「背景」「必然性」「願い」「当たり前のよさ」の4つの視点をもって、「深い児童理解」を進める。 ・「やりきえる力」の育成を図る。 ・ハートボックスを各教室に、SC相談箱を給食室前に設置し、児童から教職員やSCへ相談したい時に相談できる環境を整備する。	Q-Uアンケート等の客観的指標を活用し、児童一人一人の内面に迫ろうと努力した。 ・凡事徹底を意識し、適切なタイミングで指導・評価の言葉をかけることができた。	さいごまでやり通したと頑張っていることがある。 ・先生は、わたしを励ましてくれる。	先生は、子どもを励ましてくれている。	A	A	A	・スクールカウンセラーの活用状況について、面談の希望者が多いとのことなので、もうすこし訪問の回数を増やすことは難しいのだろうか。必要ならぜひ増やすよう働きかけてほしい。 ・保育所で、すでにスマホを自分で扱いユーチューブを視聴する子もいる。 ・学校でのスマホ教育を受けていない世代では、スマホが子どもの発達に与える影響について情報が不足している面があるのでは。 ・単に禁止したり制限をするばかりでなく、上手にスマホと付き合うための情報を伝えていくことも必要なのではないだろうか。			
			「充実した心と体」を育てるために、基本的な生活習慣の確立を図る。 ・タイムマネジメントの推進。 ・感染症予防を入口に、健康の保持増進と望ましい生活習慣との関連を再認識する働きかけを通して、生活習慣の確立を目指す。 ・家族でメディアとの付き合い方を話し合い、一緒に取り組むことで、児童・保護者のタイムマネジメントへの啓発を図り、意識を高める。 ・すこやかタイムの回数の確保、充実させる。	タイムマネジメントチャレンジの結果を分析し、個別の指導を行った。 ・メディアを含めた生活習慣の改善について、自主的な行動につながる指導を行った。	タイムマネジメントの取り組みに合わせて、家庭で過ごす時間をコントロールできた。	メディアの使い方の約束を家庭で決めている。	B	A	A				

割合は、肯定的な回答の割合を示す。おおむね80%以上をA、60~80%をB、60%以下をCとする。